# 世界大会出場 精神面でも大きく成長

情報

私の情報オリンピックの旅の始まりは、中学1年の時に部活に入り、C＋＋を使ったプログラミングを本格的に始めた時です。これは私にとって、ゲームやアプリを自分の好きなように作れる点も魅力でしたが、ただプログラムを書くだけで好きでした。なので、その大会を知ってすぐに参加したいと思いました。

情報オリンピックの過去問を解くなどの練習に取り組んで気付いたもう一つの魅力は、問題解決の手段としてのプログラミングでした。例えば、地図アプリで目的地までの行き方を聞くと最短経路を教えてくれますが、これがどんな方法で求められるのか分かるようになりました。問題を解くことが楽しくなり練習を続け、高校1年・3年の時の2回で国際大会に進出できました。

2020年大会の日本選手団の集合写真

国際情報オリンピックはどの国の選手にとっても人生の重要なイベントです。まず外国を旅行することは思い出になります。そして競技の問題も世界中で募集された中から厳選された6問なので印象に残ります。また、今まで目指してきた舞台であり、未来の選手が目指す舞台でもあるので、プレッシャーの中で楽しめる貴重な大会になります。

情報の場合は、AtCoderなどのオンラインで毎週のように開催される競技プログラミングの大会に参加する選手が多いです。ここでライバルや注目していた外国の選手と国際情報オリンピックで実際に会い、より深い関係を築けました。これは他の科学五輪にはない特色です。

情報オリンピックに取り組むことを通じて、プログラミングや情報科学の楽しさを再発見し、知識も得られました。コンピュータの計算能力と情報科学の技術を組み合わせ、世の中の問題を解決する能力を身に付けることができました。これは私にとって3本目の手が生えたようなものでした。それとは別に、競技自体は対戦相手でも、競技後は解法を議論するなどして互いに高め合うことも大切だと感じるなど、競技の世界に身を置いたことで精神的な面でも大きく成長できました。

（米田寛峻・東京大学工学部計数工学科3年）